

学校教育目標 「心豊かな中学生」「自ら学ぶ中学生」「活力あふれる中学生」



# 常盤のみどり

第461号 令和4年 2月 1日(火)

さいたま市立常盤中学校  
〒330-0075  
さいたま市浦和区針ヶ谷4-1-9  
TEL 048-831-3189  
FAX 048-830-1561  
E-mail:tokiwa-j@saitama-city.ed.jp



南校舎前に甘い香りを放ち咲いている水仙。水仙全体の花言葉は「自己愛」「うぬぼれ」。色別にみると、白は寒さに負けず凜とたたずむ姿から「神秘」「尊敬」「希望」の花言葉がある。

SINCE 1947



## 己に克つ

校長 渡邊 祐子

♪思いこんだら 試練の道を行くが男のど根性～  
「ゆけゆけ飛雄馬」「エースをねらえ!」「あしたのジョー」…と吹奏楽部の軽やかで明るく、元気なスポ根サウンドがメドレーで響きます。

これは1月上旬に埼玉会館で開催された音楽会での一コマです。懐かしい曲の数々に、久しぶりに体

も心もウキウキした瞬間でした。『スポーツと音楽は人々に勇気と感動を与える音楽会』と題して開催されたこの会は、音楽部の勇ましい俊英太鼓演舞で始まりました。途中、1964年の東京オリンピックで“東洋の魔女”と言われ、女子バレーボールチームの最年少選手として活躍された田村（旧姓：篠崎）洋子選手の講演をお聞きし、吹奏楽部の音楽へつながりました。

あの1964年当時、日本中が熱狂し、視聴率66.8%を記録したオリンピック女子バレーボールの優勝決定戦。日本は強敵ソ連（現ロシア）から2セットを先取り、金メダルへあと1ポイントとなったところでソ連の猛攻にあい、粘られ、国民が見守る中、6度目のマッチポイントで勝利を手にしました。当時の緊迫した場面をご覧になった方も多いことでしょう。

田村さんは「目の前の一本を絶対に諦めない」という練習で培った強い精神が金メダルにつながったとおっしゃいました。選手を支えたのは「時間で区切る練習」ではなく「できるまでやる練習」でした。例えばレシーブ練習ですと、10本拾えたら交代という内容で、監督は選手の手が届くかどうかギリギリの場所へボールを打ちます。選手がボールを拾えなかったり、疲れて動けなかったりすると、そのたびに1本が加算され、それが延々に続き、気がつくやうに、午後3時から始まった練習が（今では考えられませんが）明け方まで続いたこともあったそうです。

「目の前の一本を見逃さない」「くじけそうになる自分に克つ」という思いはその厳しい練習から身につけたものということでした。

己に克つとは、ついつい甘やかさそうになる私自身への戒めの言葉です。冒頭の主人公、星飛雄馬は試練の道を歩んで王者となり、岡ひろみもコートでベストを尽くしエースをねらいました。進路実現に取り組む受験生、自己研鑽に励んでいる中学生にも知ってほしい姿です。